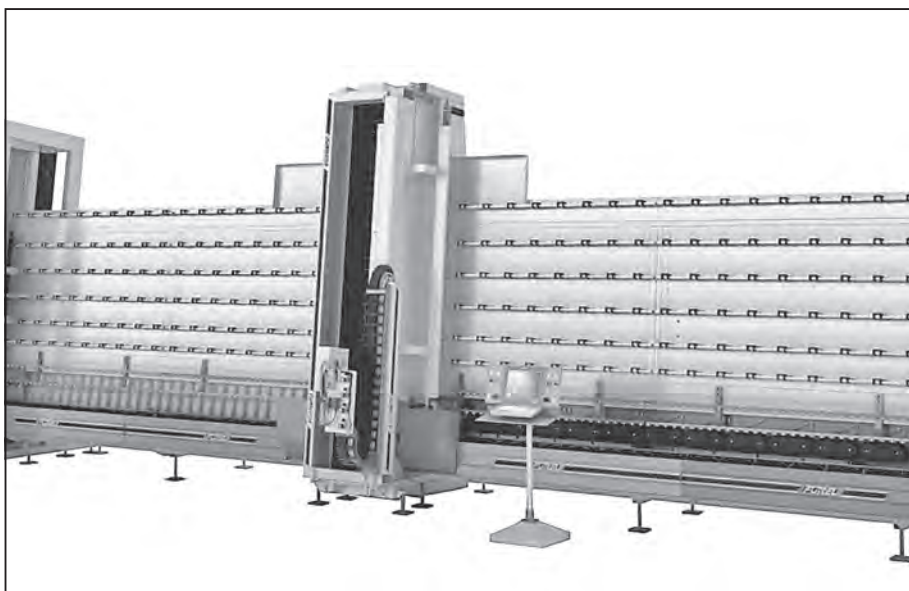


TGM

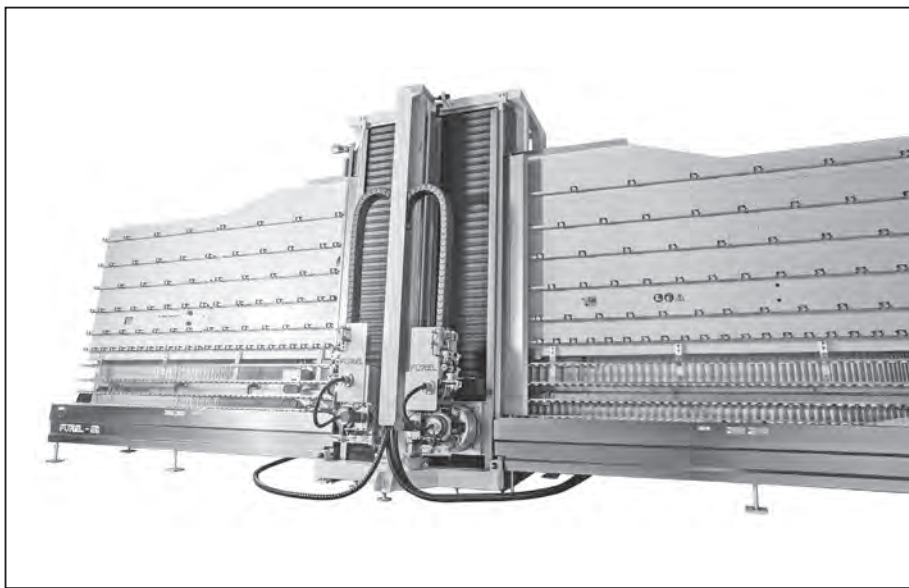
生産工程を最適化

前処理用で納入実績拡大

TGM(東京都千代田区、弘中崇社長、03・6261・1260)は、イタリア・フォーレル社の縦型自動エッジング機「EM」シリーズ、縦型自動糸面取り機「EG」シリーズを販売している。「EM」シリーズは、裏側から吸盤でガラスを保持するクランプ方式を採用。Low EガラスのようにLow E膜表面に触れないガラスでも加工できる。合わせガラス、強化ガラス製造の前処理用としても納入実績が増えている。「EG」シリーズは二つの研磨ヘッドが独立して稼働するため、1枚の板ガラスの異なる切断面を同時に加工したり、2枚の板ガラスを同時に加工できる。フォーレル社以外の複層ラインなどにも後付け可能で、生産工程で高効率、高品質を実現し、生産工程の最適化に貢献する。同社はホームページ上で動画や画像を交えて、「EG」「EM」シリーズの特徴を詳細に説明している。



縦型自動エッジング機「EM」シリーズ



縦型自動糸面取り機「EG」シリーズは1枚の板ガラスの異なる切断面を同時に加工

「EM」シリーズは、1台で糸面取り加工、ダイヤモンド、シェイプモードの加工が可能。加工モードはセルフラッピングモードの通常は切断したガラスの精度が大きい影響してくる。セルフラッピングモードは切

サイズに加工し直すので、精度が高い加工ができる。オペレーターによるプログラミングが不要。特殊サーベイスンサー(特許)によって、糸面取り加工をする場合はガラスの中心を常に検出し、ホイールのZ軸方向を制御しながら加工するので、左右の糸面幅のばらつきがない。板ずれした合わせガラスでも、指定した均一のサイズに加工し直す。シェイプモードは40通りにパターン化された図形の中から選択する。希望の寸法を入力すると、選択した形状と入力寸法通りにガラスを加工する。「EM」シリーズはサ

イズの違いによって、「EM4020」「EM4025」「EM5028」「EM6033」「EM9033」の5種。ガラスサイズ300×180〜9000×3000を加工できる。2ヘッドで生産性向上「EG」シリーズは、V字形状の溝があるダイヤモンドホイールを使用し、板ガラスの鋭利な切断面の糸面取り加工をする。板ガラスを投入すると、板の寸法と厚みを自動的に測定。追加情報を入力しなくても、全て自動で切断面を加工する。装備する二つの研磨ヘッドは独立して稼働するため、各ヘッドが1枚の板ガラスの異なる切断面を同時に加工できる。2枚の板ガラスを同時に加工できるため、加工効率が非常に高く、生産性が大幅に向上する。生産工程の最適化に貢献する。耐久力がある単二プロック構造を採用。フレームは複数を組み合わせるのではなく、単一の長いフレーム材で構成している。加工精度と堅牢性(けんろう)性が飛躍的に向上し、機械の長寿命化を実現する。

「EG」シリーズはサイズの違いで、「EG4020」「EG4025」「EG5028」「EG6033」の4種がある。ガラスサイズ300×180〜6000×3300の加工ができる。